

令和5年度 第2回「おおだ未来☆夢ランド」の提言から

令和6年1月22日（月）

【テーマ】

「バーチャル空間が創る新しい学びの可能性について」

大田市は令和5年バーチャリオン(株)と包括連携協定を締結。今回は、バーチャリオン(株)代表取締役社長兼 CEO 五十里翔吾様および代表取締役副社長兼 COO 小林祥一様より、石見銀山資料館内に「世界遺産石見銀山ミュージアム支店」を設置したことについてや、バーチャル映像を用いた取組を紹介いただき、その活用について委員から提言いただく

【意見・提言】

- 大田市の子どもたちが石見銀山の当時の銀の採掘の様子や生活、暮らし、景観などをバーチャル空間で体験できると、深い学びになる。
- 石見銀山資料館の展示物について、学芸員の解説をすべて聞ける訳ではない。バーチャリオンによって資料の解説を知ることにより、深い理解につながる。
- 資料館の膨大な資料をすべて公開することは、展示場の関係で難しいが、バーチャリオンにより可能となる。
- システムの使い方で、学習者が受け身でなく、発信者が作れるという魅力が大きい。
- バーチャルの良さをいかし、他国言語による展示の有効性。
- 活用方法として、大田市の教育・観光・産業へひろげる。目指すものは、各地域を紹介することで、見た人を現場に誘う。本物を見ようとする興味関心を持たせる。
- 子どもたちが学習した成果、創作活動等が10年後100年後まで残る工夫。
- 大田市には国立公園三瓶山、多数の文化遺産や地域行事、大田出身の作家の作品、大田市全体が美術館、博物館だと思うので、バーチャルを活用し、その先に実体験、フィールドワークを入れる活用。